**第8課三位一体の神様(2)2018.2.25**

◎ 賛美(一同) : 韓日9番、韓日34番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅱコリント13章13節

◎ 本文朗読

◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

三位一体は人間の知恵では理解できない神様の神秘です。しかし、聖書は三位一体を明白に証しており、神様ははっきりと三位一体をもって存在なされます。聖書は三位一体をどのように語っており、三位一体に対する正しい態度は何でしょうか。

**1. 三位一体の聖書的根拠**

三位一体は人間の理性では理解不可能な信仰ですが、聖書ははっきりと三位一体の神様について語っています。一番目に、旧約にあらわれる三位一体の神様を見てみましょう。旧約では神様という単語を用いる時、単数‘エロア’ではなく、複数‘エロヒム’を用いています。これについての代表的な個所は、創世記１章1∼2節、天地を創造された神様についての御言葉です。そして聖書は、神様が自らを指して語られる時、‘私’ではなく‘私たち’という単語を用いられますが、これもまた三位一体の根拠となります。代表的な個所として、神様が人間を創造された時に語られた“さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。”という創世記１章２６節の御言葉があります。何よりも旧約は、御父、御子、御霊すべてについて語っており、三位一体をあらわしています。旧約は御父なる神様の創造と救いについて語っています。そして新約で成就する御子イエス様と聖霊様の来られることについて預言しています (イザヤ 7:14, 53:1∼12、ヨエル2:28∼32)。

二番目に、新約であらわれる三位一体なる神様について見てみましょう。新約は旧約よりももっとはっきりと三位一体の神様について語っています。イエス様がバプテスマを受けられる時、御霊が鳩のように下り、神様の御言葉が宣言されましたが、これは三位一体の神様のお働きでした (マタイ 3:16∼17)。イエス様が弟子たちに地上命令を下された時にも、三位一体の神様の御名によってバプテスマを授けるようにと語られました(マタイ28:18∼20)。使徒パウロもコリント教会に向かって、三位一体の神様の御名によって祝祷しています (Ⅱコリント13:13)。

**2. 三位一体についての間違った見解**

初代教会の時から、多くの人々が三位一体の神秘を理解するために努力してきました。しかし、三位一体の神様の神秘を完全に理解することは不可能であるゆえ、これを調べていく過程で多くの異端が生まれました。その中で代表的なもの三つを見ていきましょう。

一番目、単一神論と呼ばれる ‘養子論’があります。養子論は、唯一なる神様は決して三方ではないという前提から出発します。なので、養子論では、イエス様は本来人間であるが神様が聖霊を下さって、養子にされたと主張します。しかし養子論は創造の前から存在され、創造されたことのないイエス様の神性を否認しているので異端として定められました。聖書はイエス様が神様であることをはっきりと証しています (イザヤ9:6)。

二番目に、御父受難説と呼ばれる ‘樣態論’があります。様態論もまた、養子論と同じく、唯一なる神様は決して三方であることはないという前提から始まります。様態論は、一方である神様が、時代に従って、その姿を変えてご自身をあらわされると主張します(旧約では御父、新約では御子、新約以降は聖霊の姿で)。しかしこのような主張は、それぞれ別の存在であられる御父、御子、御霊なる神様を認めず、御父が十字架で受難をされたという結果を生み出す故に異端として定められました。

三番目に、アリウス主義と呼ばれる‘依存説’があります。依存説は、ほかの異端と同じく、唯一なる神様は決して三方であることはないという前提から始まります。依存説は御父だけが唯一なる最高の神であり、御父、御霊は神様から創造された存在であると主張しました。しかしこれは御子と聖霊を神様ではない被造物として却下する主張であるゆえ、異端として定められました。もしも御子と御霊が被造物であるなら、御子と御霊を礼拝する行為は偶像崇拝になり、御子は救い主になることはできず、聖霊は神様のいのちを与えることは出来ないでしょう。だとすればなぜ、このような三位一体についての間違った見解が生じたのでしょうか。それは、神様の神秘を、限界を持った人間の理性によって無理に定義しようとしたからです。 ‘完全な三であり、完全な一’、すなわち三位一体は、理性によって解釈することのできる数学の公式や哲学理論ではなく、信仰によって受け入れるべき霊的真理であります。すなわち、三位一体の神様は、理解するための存在である前に信じるべき存在なのです。三位一体の神様は、人間の理性を超越しておられるお方であるからです。信仰を理解するために努力するのも重要ですが、それよりも聖書が語っている神様をそのまま信じる信仰が優先されなくてはいけません。

**3. 純福音信仰と三位一体なる神様**

純福音の三位一体信仰は救い論的であり、聖書的、実践的です。純福音の三位一体信仰では、三位一体なる神様を‘良き神様’、‘救い主イエスキリスト’、‘助け主聖霊様’と呼びます。これは神様に対する信仰と理解が調和をなす、聖書的表現です。

一番目に、 ‘良き神様’について見ていきましょう。純福音信仰において御父神様は御子イエスキリストをこの地に送られ、十字架にかかられ死なれるようにされることで、人類を救われた良き神様です。そして聖霊を送られ、聖徒たちの内に内住するようにされ、終わりの日、救いの時まで導かれます。

二番目に、‘救い主イエス様’について見ていきましょう。純福音信仰は、聖書の全ての御言葉がイエスキリストを証していると信じます。また、イエスキリストの救いの働きの中で、神様と聖霊様の働きを理解します。

三番目に、‘助け主聖霊様’について見ていきましょう。純福音信仰は聖霊様が、聖徒たちが神様とイエス様に出会うようにされると信じます。また、聖霊充満な聖徒たちは、神様の御言葉を悟ることができ、イエスキリストの証人となると信じます。

聖徒たちは、聖霊の働きを通して、御子へと導かれ、御子を通して御父に出会います。.

◎ マナの要約

<三位一体の聖書的根拠>

1. 聖書は三位一体なる神様について語っています。

2. 旧約は三位一体なる神様の働きと御父、御子の来られることについて語っています。

3. 新約は多くの箇所で三位一体なる神様についてはっきりと語っています。

<三位一体についての間違った見解>

1. キリスト教の歴史の中で三位一体に関連して多くの異端がうまれました。

2. 代表的なものとして養子論、樣態論、依存説があります。

3. 三位一体の神様を解釈しようとする前に、御言葉通りに信じる信仰を持たなくてはいけません。

<純福音信仰と三位一体なる神様>

1. 純福音の三位一体信仰は救い論的であり、聖書的、実践的です。

2. 純福音の三位一体信仰は、三位一体なる神様を‘良き神様’、 ‘救い主イエスキリスト’、‘助け主聖霊様’と呼びます。

3. 聖徒たちは、聖霊の働きを通して御子へと導かれ、御子を通して御父に出会います。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人と挨拶>

1. 聖書は三位一体を語っています。

2. 理解よりも信仰が先です。

3. 純福音は三位一体なる神様を信じます。

<祈り>

1. 聖書の中で三位一体の神様の恵みを悟るようにして下さいと祈りましょう。

2. 疑わずに神様の御言葉を信じる信仰を下さいと祈りましょう。

3. 純福音信仰の三位一体なる神様をより深く出会うようにして下さいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>

隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。